中日ニュース

シネスコ版

道新No.2013 珍品 鮭のぼくやい 函館 108M (本編トップへ追加)
高知新No.288 本編同じ
新愛媛No.116
中日新No.129

No. 453 37.9.21

(砲弾積載車が転覆 山陽線の貨物列車一時ストップ 108M (本編トップへ追加)
山陽線吉永駅 一九M (本編トップへ追加)

一、〝ヨットの英雄〟帰る

——東京・大阪

大平洋をただ一人ヨットで横断した堀江謙一君が九月十二日夜四ケ月ぶりに羽田に帰って来ました。胸をはり手を振ってタラップをおりて来た堀江君は不法出国者とは思えないさっそうとした姿。ところがこの海の英雄を迎えてまわりの方が大騒ぎ。

あくる日は起き抜けからテレビ局がひっぱりだこ、九十四日間、孤独と絶望感の毎日だったという堀江君もこの歓迎ぶりは想像もしなかったことでしょう。

こうしてやっと故郷に帰って来たものの引く手あまたのお座敷に当分は落ちつくひまもないでしょう。

一、湖畔の山荘事件

——山梨

秋の気配もめっきり深まった山中湖畔の別荘地で、去る十三日、昼火事の焼跡から十人の焼死体が発見されるという奇怪な事件が発生。捜査の結果、〝黒コゲの焼死体〟は別荘主の岡部義男氏、木田工務店の安藤ゆりさん、その他バー・リスボンの従業員であることが判明しました。

さらに現場検証と死体解剖の結果、死因はプロパンガスの一酸化炭素による中毒死と推定され、出火の原因も自然発火と見られるに至ったのです。然し、死因と出火ともに因果関係のないことが証明された今日、なお殺人放火説が推測されるのは、バー・リスボンを舞台に複雑な人間関係が指摘されるからでありましょう。事件の現場が、人里離れた山荘であったことにも、この事件をいっそう設定された物語りに見せたようです。

一、小豆に賭ける町

——東京蠣殻町

アイモ風土記

証券の町かぶと町の川向こう、日本橋蠣殻町は、穀物取引の町相場の町としてしられています。その昔、華やかだった米相場に代って値動きの激しい小豆が相場の中心。かぶと町に投機色がうすれた今日一かく千金を夢みる相場師たちはこのシマに定着し、赤いダイヤをおって昔ながらの売った買ったに明け暮れているのです。

小豆の収穫はお天気次第、産地北海道の天気一つで小豆の価格も激しく変動するのです。不順な北海道の天候で不作の予想、たちまち暴騰、取引所は空前の出来高を記録し一週間で一千万円を儲けた人まで現われました。しかしボロモウケできるとあって近頃では素人がふえていますが、うっかりすればたちまち大ヤケド。

こうした危険な報酬のゆえに小豆相場はますます賑わいをみせているようです。

324M 182M 149M 61M

製作配給 東京中日新聞 中部日本ニュース映画社